

M-8 山伏(2.013m)

【山行日】2021年10月10日(日)

【CL】2327 【参加者】2131.2140.2720.3252.3277.3518.3549.

【コース】(前泊：梅ヶ島キャンプ場) 発 6:40…7:10 大谷崩登山口…7:50 扇の要…10:25 新窪乗越…12:40 山伏山頂・昼食 13:10…16:10 西日影沢登山口…16:30 大谷崩登山口着

「山伏」皆さんどう読みますか？正しい読みは「やんぶし」です。大半の人は「やまぶし」と読んでしまいます。珍しい名前の山ですね。「山伏」は静岡市の最高峰で静岡市には2,000m以上の山はこの1峰だけで他にはありません。この山城を知らない人達への豆知識でした。

晴れるのか、曇って来て雨になるのか分からないどんよりとした天候の中、林道を歩く。身体もほぐれてきたころには山道に入っていた。「扇の要」まであと少しだ。「扇の要」に着く頃から天気が怪しくなって来た。

霧が垂れ下がって稜線が見にくくなってきたかと思っていたら霧雨に変わっていった。ここからが今日一番の急登で、細かい石に足を取られて歩きづらく、雨が降ると登山道も分かりづらくなる難所の「大谷崩」の始まりである。※静岡市山岳連盟の方々が40年前から登山道整備をしてくれている、今日も2名の連盟会員の方々にお会いした。余談はこれくらいにして先を急ごう。



稜線を軽快にトレッキング

喘ぎながら霧雨のうちに「新窪乗越」に着くことができた。シャリバテにならないよう行動食を摂っていたら、いつのまにか霧雨が雨になっていた。急ぎ雨具とザックカバーを付け出発。ここからがこのコースのハイライト。次々と広い尾根筋が表情変化し、苔むした木と朽ち果てた木々を見ていると心が安らぐ。

大小9つの峰を踏破するとそこが山伏の頂上。

頂上では記念写真。「ハイチーズ」。広い頂上には

ヤナギラン保護の木道が敷かれていたが、昔より花芽が少なくなっている。やはりこの山頂でも害獣被害が相当だとは聞いてはいたが？

「縦ノ木の下」で遅い昼食をとる。昼食後寒くなって来たので、早々に下山開始。

ここから「西日影沢」に下る。濡れた岩、木の根っ子、ドラム缶橋、泥濘、どれもバランスを崩すと怪我につながってしまうので、仲間に「少し時間が遅くなくても構わないから慎重に」と注意を促した。

「蓬峠」から「大岩」に下った。「大岩」からは左に曲がるがここからドラム缶橋。3年前に流されてしまった大橋横の細い崩落道に入る。

上から流されてきた木をチェーンソーで綺麗に切って道にしてあったのでとても歩きやすくなっていた。壊滅状態の山葵田を左右に見て歩き、小さな沢を渡ると、その先が「西日影沢登山口」で広い林道となり、さらに進んでいくと「大谷崩登山口」には明るいうちに無事到着した。同行の仲間に感謝、名古屋への帰路に着く。【2327 記】



山伏(2014m) 登頂